

勅語演説

012339-000-7

155.3-A397t

勅語演説

秋月胤永/著

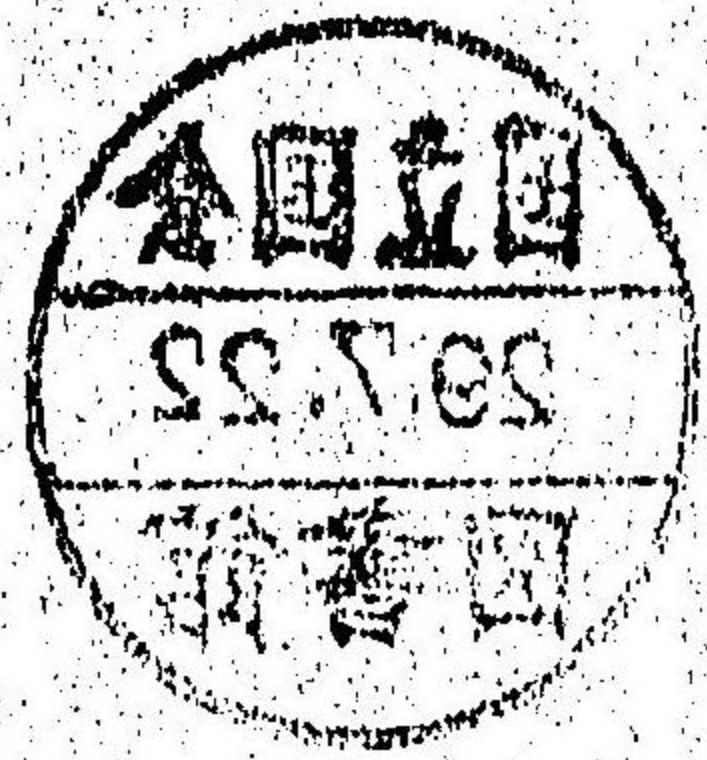
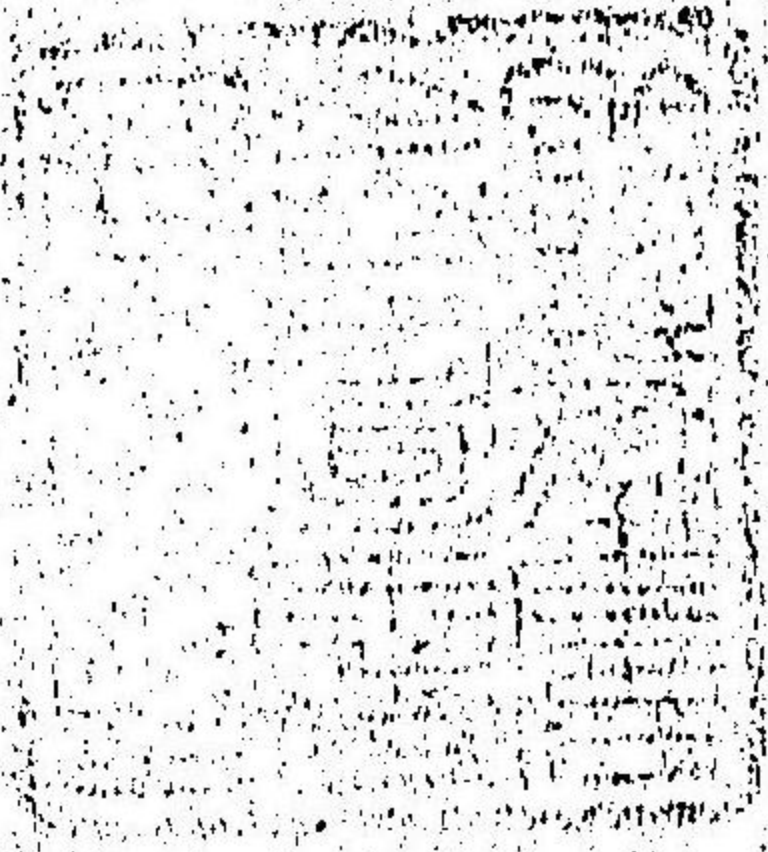
M24

AAH-0184



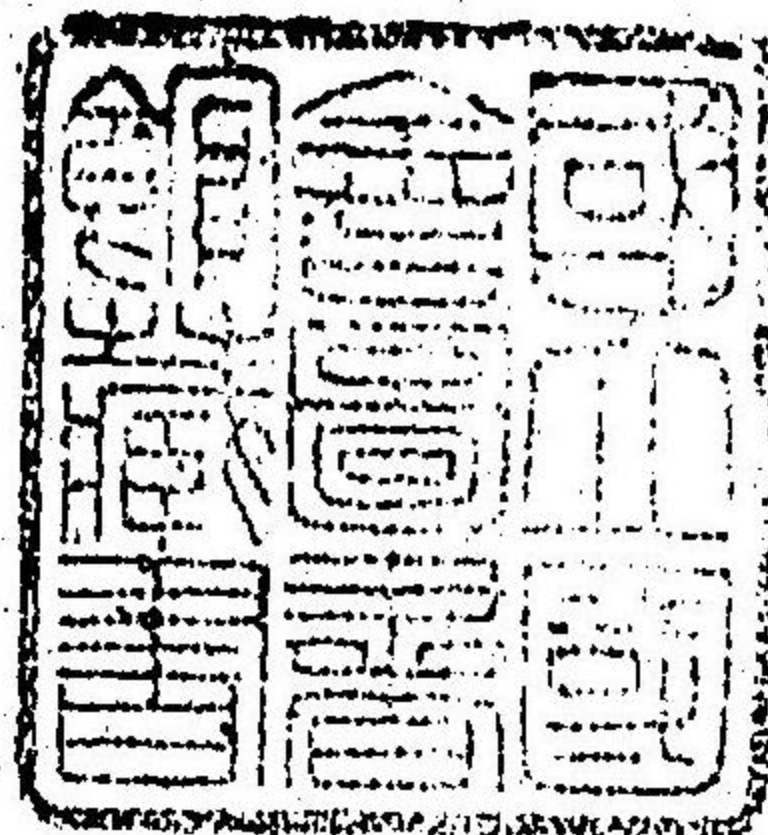
155.3

A397t



608788

155.3A3997



殊之請

Vertical columns of faint Chinese text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are difficult to decipher due to fading and the grainy texture of the scan.



337305

敕語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹
ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心
ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此我カ國體ノ精華
ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ
兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉已ヲ持シ博愛
衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器
ヲ成就シ進ミテ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重
シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤
無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ
臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スル
ニ足ラン

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ
俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外
ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其德
ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

勅語演説の序

明治二十三年十月三十一日

大正十一年十月三十一日

大正十一年十月三十一日

大正十一年十月三十一日

大正十一年十月三十一日

大正十一年十月三十一日

大正十一年十月三十一日

勅語演説の序

世界萬國多かれとも、開闢この方、帝統連綿、金匱無缺なる、我が御國のこととき、うれ何處にかある、殊に我が勅聖文武ある、今上天皇に至りて、嚮きに勅語と降り給ひて、始めて教育の道を教へ給ひより、山間僻陬、到らぬ隈なく、聖意の遍く人心に感孚せしことは、更にも言はず、遠き外國までも、その盛徳の聞おけるころ、いともく、尊き御事なれ、嘗て露國の海軍々醫のおよかし、我が校に來りしとき、倫理教場に至り、勅語の御趣旨を聞き、いたく感激して、やかてその謄本を請ひ求めけるに、與へければ、おにかへ大に謝して、いへらく、學校にて、一の宗教をも教へず、皇帝の勅語を授くるは、萬國よ

比類なき事あり、予必ずこれを我が語に譯して、本國に送る
へいと言へり、今や征清連勝、土地割領の勢につれて、我が國
の武威の全世界に赫々たるも、さきに軍隊に降し給ひし敕
諭に基つかすはあらずかし、されば、教育の敕語の、文運を隆
興し、國光を宣揚する大基本たること、素より予か言を待さ
ることなれば、益うの 聖旨を發揮して、國民の腦裏に徹底
せしめんこと、豈に國家の急務ならさらめやは、茲に吾か韋
軒翁は、兼てより敕語の御趣旨を畏みて、博授旁證して、我が
生徒に教へ授けらるゝ、常に熱誠と灑きて、感化至らざる所
なく、殊に敕語の御詞を口に誦み奉る時に至りては、感極り
て詞絶ひ、舌はし打沈みて、講筵滿坐、水をうちたるかことく
なりぬること、屢あり、うの生徒の腦裏に浸染せる、最深きを

見るに足る、かゝれば、翁のゆく末長く我が校にありて、教育
に力盡されんことハ、皆人の切に望む所にして、翁もうの髮
染めすして尙黒く、齒補はすして未だ全あるを、其謙讓の念
とくめかたくやあらん、ことひ辭して、故山に歸らんといひ
出てられしかは、生徒欽慕の情にたへず、いて敕語の演説と
摺卷にして、記念にもせむとて、余に序を乞ふ、余尤も翁は去
を惜しむ者なれハ、いなみあたく、こゝに謹みて敕語のあり
かたきゆゑよしを述へ、并せて翁の斯は道に盡されし程を
一言篇首に冠す

明治二十八年卯月のその日

第五高等學校長 中川 元

敕語演說ヲ進ツル表

臣 秋月胤永

薰沐九拜謹テ表ヲ上ル臣不肖叨リニ乏ヲ熊本第五高等
中學校教授ノ職ニ承ク伏シテ惟ミルニ
陛下光明隆渥ナル無前ノ 勅慮ヲ垂レサセラレ去年
十月三十日ヲ以テ乃チ教育ノ 勅語ヲ降シ賜ヒ教導
ノ基礎之ニ由リテ固ク立チ生徒ノ方向之ニ由リテ堅ク
定マリ多岐亡羊ノ迷夢一朝ニシテ醒メタリ臣等教導ノ
職ヲ奉スルモノ欽喜雀躍ノ至ニ堪ヘス是ニ於テ日夜
勉以テ微力ヲ盡シ深ク 聖旨ヲ生徒ノ心肝ニ貫徹セ
シメンコトヲ庶幾ヒ畏クモ宣リ給ヒシ 大御心ノ存

スル處ヲ敷衍シテ一書ヲ草シ以テ倫理講説ノ資ニ供セ
リ因テ今謹テ之ヲ闕下ニ奉進ス若シ乙夜ノ觀覽ヲ賜ハ
ハ臣ノ光榮何モノカ之ニ過キン謹テ表ヲ奉シテ以聞ス
臣胤永誠惶誠恐頓首頓首

明治二十四年十月

第五高等中學校教授正七位 秋月胤永

敕語演説

秋月胤永謹述

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト
宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ

謹テ按スルニ此ハ一篇ノ冒頭ニシテ第一段トス。我カ日本
ノ國ヲ建ツル其ノ初謀ノ遠クシテ基ノ厚キヲ謂フ。伊弉諾、
伊弉册ノ二尊ハ我カ帝國ノ土壤ヲ開闢シ、天地ノ化育ヲ輔
相シ、以テ利用厚生ノ道ヲ興シ、又首出不群ノ皇子ヲ生ミタ
マヒキ。是レ即チ天祖ナリ。天祖天照大神神聖ニマシマシテ、
明德六合ヲ照シタマフ。乃チ群神ニ命シテ、下土ヲ平定シ、天
孫ヲレテ葦原ノ中國ニ居テ、其ノ主タラシメ、豐葦原ノ瑞穂

國ハ、是レ吾カ子孫ノ王タルヘキ地ナリ、爾宜シク就キテ治ムヘシ、寶祚ノ隆ナル、當ニ天壤ト窮リ無カルヘシト告ケ賜ヒ、因リテ天璽鏡劍ヲ授ケ賜ヒキ。夫レ鏡ハ至明ニシテ照サ、ル所ナク、物其ノ情ヲ遁ル、コト能ハス。是ハ即チ知ナリ。玉ハ溫潤ニシテ含蓄スル所アリ。是ハ即チ仁ナリ。劍ハ斷スヘクシテ斷ス。是ハ即チ勇ナリ。天祖其德ヲ神器ニ寓シ賜フ。蓋シ斯ノ道ハ、以テ國ヲ治ムヘク、民ヲ安ンスヘシト云フニアリ。且ツ之ヲ視ルコト吾ヲ視ルカ如クセヨト告ケタマフニ至リテハ、聖慮ノ在ル所、窺ヒ知ルヘキナリ。彼ノ支那ノ聖主ノ天下ヲ禪ルニ當リテ、惟精ニシ、惟一ニシテ、允ニ厥ノ中ヲ執ルト告ケシモ、天祖ノ天孫ニ命シタマヒシ所ニ外ナラス。實ニ東西符ヲ合スルカ如シ。然ルニ彼ハ數世ニシテ姓ヲ

易ヘ、我ハ萬世一系ニシテ、天壤ト與ニ窮リナシ。即チ我カ德業ノ深遠ナルカ故ナリ。抑モ人々ノ固有セル所ヨリ言ヘハ、知仁勇ハ三德ナリ。其ノ事ヲ處シテ宜シキヲエ、過不及ノ過チナキヨリ言ヘハ、中ナリ。人々ノ蹈ミ行ハサル可ラサルヨリ言ヘハ、此ノ勅語ノ末段ニ所謂斯ノ道ナリ。凡ソ心身ヲ修正シ家國ヲ治平スル方法ハ、之ヲ外ニシテ他道アラザヤ。是レ天祖ノ天孫ニ授ケタマフ所ニシテ、列聖承繼シ、永ク其ノ業ヲ墜シタマハサル所以ニ非スヤ。請フ神武帝當日ノ事業上ニ就テ之ヲ言ハン。天祖ノ遺烈ヲ受ケ、東征ノ武略ヲ奮ヒ、八十梟帥、長髓彦、土蜘蛛等ノ醜類ヲ掃攘シ、數年ヲラスレテ鴻業ヲ恢廓シタマヒシハ、其ノ知ニシテ勇ナリ。飽クマテ抗戰スル饒速日、及ヒ弟猾、弟磯城等ノ降ヲ許シテ、創業ノ用ニ

供シタマヒシハ、其ノ知ニシテ仁ナルニ非スヤ。外ニシテハ
既ニ能ク斯クノ如シ。内ニシテハ、夫婦相和シ、諸皇子兄弟相
友愛シ、相助ケラル、モ、皆三徳ノ發見ニ非サルハナシ。善ク
天祖ノ意志ヲ繼述セラレシモノト謂ハサルヲ得ンヤ。ソノ
事業ノ規模タル、既ニ宏遠ニシテ、道德ノ根本モ、亦深厚ナリ。
人民ノ聚合シ、順服シ、以テ億萬年ニ至ルモ、豈偶然ナランヤ。
彼ノ海外諸國ノ禪讓シ、放伐シ、或ハ一時ノ政刑法律ヲ以テ、
國內ヲ制服スルモノトハ、天地懸隔セリ。

我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一
ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此我カ國
體ノ精華ニシテ教育ノ淵源モ亦實ニ此

ニ存ス

謹テ按スルニ、此ヲ第二段トス。臣民ノ克ク忠孝ナルハ、神聖
ノ感化陶鑄ニヨリテ成リ立チタルモノニシテ、法律束縛ノ
能ク爲ス所ニアラサルナリ。我カ神武帝ハ、神武ノ聖資ヲ以
テ、天祖ノ大統ヲ繼承シ、遂ニ國基ヲ確立シ、鴻圖ヲ擴充シタ
マヒ、續キテ聖子神孫、世々ニ出テサセラレ、治メテ教ヘタマ
ヒシ所モ、皆斯ノ道ニ率由シタマヘルニ非ルハナシ。然ルニ
言舉ケセサル御國風ニシアレハ、唯之ヲ心ニ得サセラレ、身
ニ本ケタマヒ、其ノ行實ヲ以テ臣民ニ率先シ、其ノ活模範ト
ナラセタマヘリ。故ニ克ク孝ニ克ク忠ナルユト、影ノ形ニ隨
ヒ、響ノ聲ニ應スル如ク、億兆ノ人民、咸ク其ノ徳ヲ同クシ、心
ヲ一ニスルニ至ル。是レ豈徒法言語ノ能クスル所ナランヤ。

今又聖子神孫ノ德行事業ヲ歷舉シテ、畧言スル所アラシク。綏靖帝ハ神武帝ノ皇子ニシテ、天資英偉剛果。神八井耳命ト同ク謀リテ、不軌ヲ圖レル手研耳ヲ誅シ、以テ天位ヲ正シタマヘリ。何ソ其ノ智ニシテ勇ナルヤ。先帝崩シテ悲慕止ムコトナク、諒闇ニ居リタマヘリ。何ソ其ノ仁ナルヤ。崇神帝ハ、神ヲ敬ヒ民ヲ仁ミテ、賑恤勸農ヲ本トシ、又人民ヲシテ長幼ノ序ヲ知ラシメタマヘリ。其ノ詔ニ民ヲ導ク本ハ教化ニ在リト宣ヒキ。垂仁帝ハ、倜儻大度アリテ、資性惻怛ナリ。倭彦命ノ薨セシトキニ其ノ近臣ヲ以テ殉ス。帝聞召シテ之ヲ憫ミ、皇后ノ崩シタマフニ至リテ、詔シテ土偶ヲ以テ殉死ニ代ヘシメ、遂ニ永制トシタマヘリキ。至仁ト云フヘシ。應神帝ハ、三歳ニシテ、皇太子タリ。皇太后攝政六十餘歳ノ久キニ及フマテ、尙

ホ儲位ニ在シ、怡々トシテ色養シタマヒ、曾テ年邁齒頹ノ歎キアラセラレシトモ聞エス。純孝ニシテ且仁ナリト謂フヘシ。帝ノ位ニ即キタマヘル、百濟ノ學者王仁ヲ徵サル。王仁徵ニ應シ、論語ヲ持テ來リテ之ヲ獻ツル。是ヨリ先キ、我カ神聖ハ身ヲ以テ率先シ、臣民ニ教ヘタマヒ、絶エテ文教ノ具アルコトナカリシカ、是ニ至リテ始メテ文學教課ノ材料モ亦我カ國ニ輸入セリ。乃チ皇太子ヲシテ王仁ニ就キテ學ハシメ、後遂ニ皇太子ノ御讀書ニハ孝經ヲ始トシ、之ヲ以テ常典トシタマフニ至レリ。蓋シ帝ノ意ニ吾カ祖宗ハ躬行感化ヲ以テ臣民ヲ率非タマヒシカトモ、今、教課ト爲スヘキ文書ノアリテ、之ヲ用ヒンハ、至簡ニシテ且ツ至便ナリ。況ンヤ年ヲ經ルコト既ニ久シク、土地彌廣マリ、人民彌多キニ於テチヤト

オホシタマヒシナルヘシ。實ニ我カ國ニ教育ノ光ヲ加ヘタルモノト謂フヘシ。仁德帝ハ、百姓ノ心ヲ以テ心トシ、菲衣惡食シ、宮室ハ弊レテモ改メ作ラス、三歲ヲ經ルマテ課役ヲ除キタマヘリ。是皆仁心ノ仁政ニ發スルモノナリ。之ヲ要スルニ、仁德帝釋郎子及ヒ仁賢顯宗御兄弟ノ如キ、前後比類ナキ友愛仁讓ナル御方々ノ出テサセタマヒシハ、祖宗ノ餘澤、先帝ノ至德トハイヘトモ文教ノ光ヲ加フルモノ、オノツカラ其ノ助ヲ爲シ、トイフモ、妨ナカルヘシ。夫レ仁德帝釋郎子相讓リタマヒテ、久シク帝位ヲ曠クシタマヘル、魚ヲ獻ツルモノ、此ニ獻ツリ、彼ニ致シテ、遂ニ魚ノ腐爛スルニ至リシハ、友愛謙讓ノ至リニシテ、千古ノ美談ト言ハサルヲ得ス。是唯御國ノミナラス、外國ノ史書ニモ、曾テ見サル所ニシテ、此ヲ

準則トセハ、天下ノ兄弟タルモノ、定マラントイフヘシ。孝德帝ハ國守ヲ戒飭シテ、凡ソ治ヲ欲スル者ハ、君タル者モ、臣タル者モ、當ニ已テ正クシテ人ヲ正クスヘシ、若シ自ラ正クセスシテ、何トカ能ク人ヲ正クセント宣ヒキ。帝ノ如キハ、眞ニ學ヲ好ミテ其ノ要ヲ得サセタマフモノトイフヘシ。大化五年、八省百官ヲ置カレタリ。蓋シ此時、既ニ式部省ニ大學寮ヲ置カレ、遂ニ天武帝ニ至リテ、京都ニ大學ヲ、諸國ニ國學ヲ置カレタリ。又文武帝ノ時ニ至リテハ、大學ニ博士助教等ノ職ヲ、國學ニ博士醫師等ノ職ヲ設ケラレシコト、令ニ明カナリ。此ニ至リテ、我カ國ニ文教擴充ノ實形、始メテ現ハレタリ。天智帝ハ性至孝ニシテ、母帝ノ崩シタマヘル、素服ニシテ詔ヲ出シタマヘルコト、六年ニ及ヒ、然ル後ニ登祚シタマヒキ。純

孝ニシテ至仁ナリト言フヘシ。又能ク學ヲ好ミテ賢ヲ尊ヒ、學校ヲ興シテ、教道ヲ明ニシタマヒキ。且ツ帝ハ英邁偉斷ニシテ、中臣鎌足ト謀リ、大姦ノ入鹿ヲ誅シタマヒシカ如キ、帝ノ知仁勇ノ資ヲ兼テ備ヘタマヘル、祖宗ノ志茲ニ至リテ事業ニ發シタリトイフヘシ。文武帝ハ資性寬仁ニシテ、百姓ヲ賑恤シ、學ヲ好ミタマヒテ、始メテ大學ニ釋奠ノ禮ヲ行ハセラル。又博ク經史ニ涉ラセタマヒ、令ヲ撰定セシメテ、天下ニ頒チ賜ヒキ。始メテ天智帝令十二卷ヲ撰ハシメ、天武帝ノ時ニ之ヲ修正シ、帝ノ即位四年ニ至リテ、刑部親王及ヒ藤原不比等ニ敕シ、重テ律令ヲ選定セシメラル。此ノ時ニ二官八省ニ改メ、學事學職ヲ悉ク大學寮ノ頭ニ管理セシメラレ、是ニ於テ官制大ニ備ハリタリ。桓武帝ハ英畧世ヲ蓋ヒ、知勇兼テ

備ヘタマヒ、人ヲ知リテ能ク任シ、又能ク諫ヲ納レ、叛服常ナラサル蝦夷ヲ平定シテ、都ヲ山城要害ノ地ニ遷シ、以テ永世不易ノ基ヲ建テ、善ク祖宗ノ志業ヲ恢ニシタマヒシハ、孝ノ大ナルモノト謂フヘシ。是ニ於テ我カ日本ノ大綱節目モ亦大ニ備ハレリ。蓋上代神聖以來、斯ノ道ヲ御心ニ得テ御身ニ行ハセツレ、一家仁ニシテ一國仁ニ興ルニ至ル、所謂寡妻ニ刑リシ、兄弟ニ至リ、家邦ニ推及スル感化ノ德教、連綿トシテ絶エサリシヨリ、孝子義人ノ輩出スルモ、必然ノ勢ナリ。然リト雖モ、史書之ヲ闕ケハ、其ノ詳ナルコトハ、得知ルヘカラス。橘媛ノ日本武尊ニ事ヘマツリ、危ヲ見テ命ヲ授ケラレシカ如キ、兄媛ノ應神帝ニ侍リテ常ニ親ヲ思ハレシカ如キ、其ノ義其ノ仁、想ヒ見ルヘシ。調ノ伊企儼ノ、紀ノ男醫ニ副ヒ、行キ

テ新羅ノ罪ヲ問ヒ、軍敗レテ執ヘラル、新羅劫迫シテ其ノ
禪ヲ解キ、其ノ臂ヲ露ハシ、日本ニ向ケテ、日本ノ將吾カ臂ヲ
噉ヘト呼ハシメシカハ、伊企儼乃チ大呼シテ曰ク、新羅王吾
カ臂ヲ噉ヘト言ヒテ終ニ屈セサリシ、其ノ忠勇義烈、以テ知
ルヘシ。橘逸勢ノ女ノ孝行ナル、小野篁ノ至孝ナルカ如キモ、
皆以テ當時ノ流風遺韻ノ一斑ヲ知ルニ足レリ。今又後世ニ
徵レ、其ノ二三ヲ舉クヘシ。難波部ノ安良賣ハ、筑前ノ人ナリ。
父母ニ事ヘテ至孝ナリ。父母没シテ後、常ニ墓ヲ拜レ、朝夕ニ
哀ヲ盡シ、年十六ニシテ宗像大領、宗形秋足ニ嫁ス。秋足死レ
テ遠近之ヲ聘スレトモ、誓ヒテ節ヲ守レリ。州郡狀ヲ奉ツリ、
天長五年三月詔シテ位ニ叙シ、田租ヲ免セラレキ。和邇
部廣刀自ハ、加賀ノ人ナリ。年十四ニシテ山城ノ人秦、眞勝ニ

嫁ス。夫亡セシ後、家側ニ廬スルコト三十餘年ニ及ヒ、言此ニ
及ヘハ、悲泣スルコト初喪ノ如クナリシカハ、齊衡中ニ褒セ
ラレテ爵ニ叙シ、賜ハリキ。早部氏成部賣ハ、攝津武庫郡ノ人
ナリ。年十六ニシテ、右京ノ人文室武庫營ニ嫁シ、二十七年ヲ
經テ、夫死ヌ。氏成部賣喪ニ居テ禮アリ、死ニ事ルコト、生ニ事
フルカ如シ。日ニ再食セス、遂ニ再嫁セス。貞觀中、詔シテ位ニ
階ニ叙シ、田租ヲ免シ、終身免役シテ、其ノ門閭ニ旌表セラレ
タリ。倭果安ハ、大和添下郡ノ人ナリ。奈良ノ許智磨ハ、添上郡
ノ人ナリ。果安ハ父母ニ孝ニ、兄弟ニ友ナリ。又近地ノモノハ、
或ハ飢エ或ハ病ムコトアレハ、必ス自己ノ食物ヲ齋ラシ、巡
視看養セシカハ、登美箭田二郷ノ百姓、其ノ恩義ニ感シ、之ヲ
敬愛スルコト、親ノ如クスルニ至レリトソ。許智磨ハ性孝順

ニシテ、人ト怨惡ナシ。嘗テ後母ノ讒ニ遭ヒテ、父ノ家ニ入ル
ヲ得サリシカトモ、絶エテ怨色ナク、奉養彌篤カリシカハ、和
銅七年、二人ノ孝義ヲ旌ハシ、終身事ヲ課スルコト勿ラシメ
ラレタリ。綱引金村ハ、備後鞆田郡ノ人ナリ。年八歳ニシテ父
ヲ喪ヒ、哀毀骨立ス。尋テ母モ亦没シ、追慕益深カリケレハ、景
雲二年、詔シテ爵二級ヲ賜ヒ、其ノ田租ヲ復シテ、身ヲ終ヘシ
メラル。矢田部ノ黑鷹ハ、武藏入間郡ノ人ナリ。父母ニ事ヘテ
孝ナリ。生時ニハ色養シ、死時ニハ哀毀シ、其ノ心ヲ盡サ、ル
コトナク、十六年間齋食一日ノ如クナリケレハ、寶龜三年、其
ノ戸徭ヲ免シ、以テ孝行ヲ旌ハセラルキ。伴ノ家主ハ、安房安
房郡ノ人ニシテ、性至孝ナリ。父母没セシ後ハ、口ニ滋味ヲ絶
チ、像ヲ設ケテ供養シ、之ニ事フルコト、生時ニ異ナラス。其ノ

事聞エシカハ、承和中ニ敕シテ位三階ニ叙シ、終身戸田ノ租
ヲ免シ、門閭ニ旌表セラレタリ。丹生、弘吉ハ、若狹遠敷郡ノ人
ナリ。幼ニシテ父ヲ喪ヒ、獨リ母ト居リ、力田シテ奉養シ、朝夕、
父ノ墓ニ詣ルコト、一日モ懈ルコトナク、水旱風蝗時ニ凶作
アリトモ、弘吉カ田畑ノミハ、曾テ其ノ害ヲ被ルコトナカリ
ケレハ、郷里以テ孝感ノ致ス所ナリトセリ。其ノ事上聞ニ達
シケレハ、貞觀十二年、敕シテ位二階ニ叙セラレキ。下毛、公助
ハ、攝政兼家ノ隨身武則カ子ナリ。嘗テ父ニ從ヒ、右近ノ馬場
ニ賭射シテ、勝ツコトヲ得サリケレハ、武則怒リテ之ヲ撻ツ。
公助伏シテ之ヲ受クルヲ、何ソ逃ケサルヤト人間ヘハ、父老
イテ足弱シ、我ヲ追ウテ疾ク走ラハ、恐クハ顛躓シタマフヘ
シ、モシ損傷アラハ、是レ吾カ罪ヲ重ヌルナリ是ニ因リテ逃

ケスト云フ、聞クモノ感歎セサルモノナカリキトソ。此皆神聖ノ世々徳ヲ積ミ仁ヲ累チタマヘルカ、ヤカテ教育ノ淵源トナリテ、其ノ流風餘韻ノ陶鎔シ出ス所ナリ。近古南北朝前後諸名臣ノ忠烈義氣ノ如キ、既ニ人口ニ膾炙スルノミナラス、史傳ニ赫々タレハ、復々贅言スルヲ須ヒサルナリ。之ヲ要スルニ、忠孝義烈ノ道ハ、我カ國ノ固有ニシテ、一點モ外ヨリ加ヘタルモノアルニ非ルナリ。中古支那ヨリ採リシモノハ、其ノ文字ヲ以テ我カ道ヲ顯ハスニ過キサルノミ。當時皇道ノ人心ニ浸染スルノミナラス、又三歳ノ久シキ課役ヲ除キ、租税ヲ免スルコト、史書ニ筆ヲ絶タス、加之刑ヲ用フルコト至リテ少クシテ刑ナキカ如シ。是レ我カ邦臣民ノ忠孝義烈ニ勵ミ、只管皇室ヲ感戴欽仰シテ固結密着スル所以ナリ。

337305

抑我カ天祖天孫ノ創業トイヒ、聖子神孫ノ守成トイヒ、其ノ盛徳大業タル、悉ク知仁勇ノ發見スルニ非ルハナシ。又皇子皇妃ノ不世出ノ資ヲ以テ之ヲ武畧ニ發シタマフモ、遠ク祖宗ノ雄圖ヲ繼キタマヘルニ非ルハナシ。景行帝嘗テ日本武尊ニ、親ヲ以テ言ヘハ、朕カ子ナリ、實ハ神人ナリト宣ヒキ。是ヨリ先キ、熊襲既ニ服シ、復タ叛スルコト屢ナリケレハ、日本武尊ヲシテ之ヲ伐タシメラレシニ、尊謀ヲ以テ醜類ヲ誅殺シ、悉ク熊襲ヲ平ケタマヒ、既ニシテ東北ノ邊境モ屢騷擾シ、蝦夷悉ク反ス、尊奮ツテ曰ク、熊襲既ニ平キ、東夷復タ反ス、知ラス何ノ日カ太平ヲ見ルコトヲ得ン。請フ自カラ行カント請ヒタマヒシカハ、帝乃チ手ツカラ八尋矛ヲ授ケテ宣ハク、東夷性强暴ナリ。其中ニ蝦夷ハ最強シ。上古以來、未タ王化ニ

浴セス。今汝猛キコト電雷ノ如ク、向フ所前ナク、攻ムル所必
勝ツ。威ヲ以テ之ニ視シ、德ヲ以テ之ヲ懷ケ、兵革ヲ假ラスシ
テ臣順セシメヨ。往キテ賊境ニ臨マハ、必ラス德教ヲ宣ヘ、伏
セサル者アラハ、之ヲ伐テト宜フ。既ニシテ尊蝦夷ノ境ニ至
リタマヘハ、夷酋等望ミ見テ驚怖シ、弓矢ヲ投ケテ罪ヲ請ヒ、
蝦夷遂ニ平ケリ。景行帝ノ深慮遠謀、日本武尊ノ神武英畧ノ
如キ之ヲ何トカ言ハン。尊前後共ニ兵馬ノ力ヲ用ヒスシテ、
東西ヲ平定シ、忽ニシテ其ノ降ヲ納ル。何ソ其ノ勇知ニシテ
仁ナルヤ、嗚呼盛ナルカナ、偉ナルカナ。神功皇后先帝ノ不庭
ヲ征シ、中道ニシテ崩スルヲ歎カセタマヒ、婦人ノ御身ヲ以
テ續キテ威武ヲ奮ヒ、悉ク妖氛ヲ掃蕩シ、遂ニ新羅ヲ征セン
トテ、群臣ニ事成ラハ、其ノ功ヲ共ニセン、成ラサルトキハ、罪

ハ余カ身ニアリト宣ヒテ、往キテ之ヲ征シタマフ。新羅王乃
チ面縛シテ降ヲ請フ。群臣ニ之ヲ誅セント請フ者アリシカ
ハ、皇后初メ三軍ニ降ルモノハ殺スコトナカレト令シタル
ニアラスヤ、今既ニ降ル、之ヲ殺スハ不祥ナリト宣ヒシカハ、
高麗百濟之ヲ聞キテ、皆降り、西蕃ト稱スルニ至レリ。是我カ
帝國未曾有ノ偉勳ニシテ、威武ノ大ニ海外ニ震フコト、實ニ
是ヲ以テ初メトス。爾後我國文教工藝ノ開ケタルモノモ、盖
シ此ニ胚胎セリ。史ニ、皇后ハ夙ニ聰明睿知ニシテ、容貌壯麗
ナリト見ユ。其ノ外征ノ師ヲ發スル、措置軍令、共ニ至ラサル
所ナク、又其ノ降ヲ赦シテ、之ヲ用ヒタマヒシハ、知仁勇ノ至
リニ非レハ、豈之ヲ能クスルコトヲ得ンヤ。抑天祖以來、神器
ヲ授受セラル、ニ、劍其ノ一ニ居リ、又細戈千足ヲ以テ國ニ

名ツケタマヒ、神ヲ祭ルニモ、刀矛ヲ用ヒタマヘリ。國ヲ建ツルノ主義モ、亦以テ知ルヘキナリ。蓋シ國ヲ治メ政ヲ爲ス、文武ノ二途ニ在リト雖モ、其實ハ武ヲ以テ主トシタマヘルナリ。我カ國民タルモノ、コノ遺緒ヲ繼キテ威武ヲ振張シ、軍備ヲ充實セスンハアルヘカラス。況ンヤ四面皆海ニシテ、勁敵ノ衝ニ當ルヲヤ。

爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉已チ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進ミテ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦

緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

謹ヲ按スルニ、是ヲ第三段トス。蓋シ 陛下ノ臣民ヲ教導

シタマヒ、深ク聖慮ヲ注キタマヘル所ハ、正ニ此ニ在ラン。爾臣民ト呼起サセタマヒシヲ伺ヒ奉ツレハ、嚴トシテ龍顏ヲ咫尺ニ拜シ、玉音ノ耳底ニ徹スルヲ覺エ、即チ躍リテ其ノ教範ニ入ラントスル思ヲナセリ。拜讀スルモノ誰カコノ思ヲ同クセサランヤ。夫レ吾カ身ハ、親ノ分身ニシテ、同氣連體ナレハ、吾カ自由ニ爲シ得ヘキモノニ非ス。其ノ生ル、親ノ懷

ニ抱カレ、親ノ背ニ負ハレ、前後左右ニ縋リ、片時モ離ル、コトナシ。食フニモ、衣ルニモ、起居寒暖、ミナ親ノ世話ナラサルハナシ。實ニ罔極ノ洪恩ナリ。稍長スレハ、幼穉園ニ入レ、又進ミテハ小學ニ入ラシメ、尋常科ヨリ高等科ニ至リ、又昇リテハ中學ニ入ル、ナト、其ノ心勞ハ果シテ如何ソヤ。且ツ其ノ費用莫大ナレハ、貴族富豪ノ人ハ、心配モ少ナケレトモ、薄産少給ノ身ニシテ、相當ノ學資ヲ取辦スルハ、極メテ難カラシ。又其ノ業ヲ卒ヘンニハ一年二年ノ事ニ非ス。而シテ子ハ月ニ年ニ成立ニ赴キ、親ハ日ニ老衰シ、身體衣食共ニ意ノ如クナルコト能ハサレハ子タルモノハ、宜シク千辛萬苦ノ勞ヲ憚カラス、其ノ罔極ノ洪恩ニ報ユヘキナリ。夫レ親ハユノ困難ヲ凌キ、色々ト取辦シテ、其ノ業ヲ卒ヘシメケルニ、子タル

モノ、位官ヲ忝クスルカ、又ハ社會ニ立チテ公益ヲ謀ル地位ニ至レハ、幼少ヨリノ教育ヲモ、斯ク困難ノ中ニ世話セラレシコトナモ、全ク知ラサルカ如ク、已レ獨リ我カ身ヲ成シ得タルヤウニ思ヒナシテ、大恩ヲ報セントモ思ヒ立タス、父母ハ日ニ増シ老朽シ、或ハ田園家屋ヲ、既ニ盡ク其ノ資金ニ給シテ、遂ニ赤貧トナルニ至レルモ、其ノ子ニシテ之ヲ等閑ニ附スルモノ、世間ニ往々コレアリ。復タ何ノ心ソヤ。抑父母ニ孝ニト仰セラレシハ、貴賤貧富ヲ通シテノ御教ナレトモ、正シク親々ノ勞費ニヨリテ、其ノ身ノ成リ立チシモノハ、特ニ第一句ノ御旨趣ヲ服膺セサルヘカラス。况ンヤ忠臣ハ孝子ノ門ヨリ出ツト謂ヘルニ非スヤ。夫レ善ク親ニ孝ナルモノコソ、即チ帝室ノ忠臣ニシテ、是ハ殊ニ聖慮ヲ垂レサセタマ

フ所ナリ。之ニ反スル不孝ノ者ノ、位官ナトテ忝クスル理由
ノアルマシキハ、固ヨリナリ。其ノ社會ニ立チ公益ヲ謀ル地
位ヲ占メシキハ、豈之ヲ得可ケンヤ。父母ト兄弟トハ、天然
骨肉ノ組合ニシテ、親ノ次ハ兄弟ニ若クモノナシ、兄弟姉妹
ハ、譬ヘハ楛子ノ段アルカ如ク、自然ニ前後ノ順序アリテ、弟
ハ兄ニ敬順ヲ盡シ、兄ハ弟ヲ親愛シテ、互ニ愛敬友于ノ情ヲ
盡シ、貧富苦樂ヲ共ニセスハアルヘカラス。夫婦ハ、父母兄弟
ト異ナリ、他人ヲ附ケ合セテ、祖先ノ後ヲ繼キ祭祀ヲ掌ルモ
ノナレハ、尤モ大切ニシテ相和セスハアルヘカラス。サテ其
ノ和ハ別アルヲ以テ本トス。夫婦ハ固ヨリ陰陽自然ノ辨別
アリ。各其ノ別ヲ失ハス、女ハ夫ノ家ニ安ンシ、男ハ妻ノ室ニ
安ンシテ、各其ノ分ヲ守リ、夫唱ヘテ妻隨フノ道ヲ失フヘカ

ラス。斯クアリテコソ、永ク親愛ヲ全クシ、繼嗣モ多ク祭祀モ
爲シ得ヘキナレ。若シ辨別ナクシテ、愛情私慾ニ流レ、父母ヲ
疎シテ、專ラ妻ヲ親ムニ至ラハ、一家ノ治ヲサルノミナラス、
國家ノ大事ヲモ誤ルヘシ、其ノ例ハ少カラス、戒メサル可ケ
ンヤ。夫婦相和スルニ於テ、更ニ一言スヘキコトアリ。凡ソ妬
心ノ甚シキハ、婦人ニ如クハナシ、本妻アリトモ、繼嗣ナキト
キハ、妾ヲ買フモ、餘義ナカルヘシ。然ルニ今好色玩戯ノ爲ニ
妾ヲ蓄ヘテ、夫婦不和ノ基ヲ開キ、或ハ親子ノ親愛ヲモ失フ
ニ至ルモノアリ、豈誠メサルヘケンヤ。是ニ由リテ之ヲ觀ル
ニ、西洋一夫一婦ノ論ヲ以テ良法トスヘシ。朋友ハ同志同學
ナト、意氣相投シテ組ミ合フモノニシテ、信ヲ以テ主トシ、互
ニ忠ニ告ケテ善ク導キ、徳ヲ修メ文ヲ學フ輔トスルモノナ

リ。既ニ天合ニ非ス、又夫婦ノ如キ偕老同穴ノ契ヲ結フモノトハ異ナリ。故ニ信ナケレハ、朋友ノ道ハ立タサルナリ。凡ソ人ノ世ニ在ル、組合ニテ持チ居ルコト、恰モ家ヲ造ルニ土臺ハ土臺ニ、棟梁ハ棟梁ニ、中間ノ敷居鴨居ト柱ト、各組ミ合ヒテ成リ立ツカ如シ。父子兄弟ハ、天合ノ組合ニシテ、夫婦朋友ハ人合ノ組合ナリ。一般ノ人民、悉クコノ組合ヲ遁ル、コト能ハス。故ニ一家ノ組合、井然トシテ成リ立ツトキハ、家齊フヘシ。一町村ノ組合、井然トシテ成リ立ツトキハ、一町村治ルヘシ。推シテ郡ニ至リ、縣ニ至ルモ、皆然ヲサルハナシ。故ニ各縣郡市長善ク聖慮ヲ奉體シテ、衆庶ヲ獎勵シ、町村長モ亦能ク之ヲ助ケ之ヲ率非ハ、庶幾クハ聖慮ノ萬一ヲモ安ンシ奉ツルコトヲ得ヘシ。況、ヤ全國學校々員ノ既ニ此ニ從事スル

者ニ於テヲヤ。恭儉己ヲ持ストハ、莊敬ニシテ、取締リ放慢ナラス、善ク節シテキマリアリ、善ク制シテキリモリスルヲ言フ。更ニ儉ノ一義ヲ推言セハ、衣食住ヲ始メ、諸器物及ヒ内外ノ交際ニ至ルマテ、悉ク節制儉約ニシ、人々各其ノ分ヲ守リ、僭セス濫セサル様ニスヘキナリ。今ヤ我カ國ヲ通觀スルニ、衣食住ヲ始メ、何事トナク昔時ニ比スレハ、奢侈華麗ナルコト、幾倍ナルヲ知ラス。各人民ノ資用スル所ノ出金額ハ、多クハ其入金高ヨリ常ニ超過スルカ如クナレハ、漸次窮困ニ歸セサルヲ得ス。深ク察セサルヘケンヤ。人民悉ク窮困スルトキハ、其ノ極ハ國家ニ及ハサルヲ得ス、今ノ陰雨セサル時ニ及ヒテ、豈綱繆セサルヘケンヤ。博愛トハ、人ニ接スル上ノ本體ナリ。然レトモ之ヲ發用スルニ至リテハ、次第順序ナクン

ハアルヘカラス。愛ノ尤モ深く且厚キハ、父母ニ如クハナシ、
隨ヒテ祖父母ヨリ伯叔父母兄弟ニ及ホスヘキナリ。又大別
スルトキハ、同姓親族ヨリ母族妻族ノ外戚ニ至リ、或ハ吾カ
老幼ヲ愛レテ人ノ老幼ニ及ホシ、或ハ民ヲ仁ミテ物ヲ愛ス
ルノ類ナリ。必其ノ淺深厚薄ノ次序ヲ失フヘカラス。學ヲ修
メ業ヲ習フトハ、道德ノ學ノ如キ、五倫五常ヲ始メ、廉耻禮讓
等ニ至ルマテ、師ニ就キ友ニ隨ヒテ、之ヲ受ケ更ニ經傳ニ據
リテ精究シ、以テ心ニ得テ身ニ行フヘシ。陸海軍ニ志アルモ
ノハ、各其ノ校ニ入り、又技藝ノ學、法工理化、及ヒ農商ノ類ノ
如キモ、各其ノ師ニ就キ、或ハ其ノ校ニ入りテ、之ヲ學ヒ、或ハ
書ニヨリテ、之ヲ究メ、實地ニ之ヲ行フヘシ。之ヲ修習スルニ
歲月ヲ積ミ、サテ其ノ工夫ヲ用フルコト久シケレハ、終ニハ、

德器ヲ成就シ、智能ヲ啓發シテ、或ハ一世ノ師表トナリテ、治
化ヲ補ヒ君德ヲ輔クヘク、或ハ干城ノ將校トナリテ、國家ヲ
衛リ、禍亂ヲ防クヘク、或ハ實業ノ泰斗トナリテ、國家ヲ富強
ニシ、人民ニ幸福ヲ與フヘシ。是ニ於テカ、公益始メテ擴充ス
ヘク、世務益開張スヘシ。夫レ憲法ハ政務ノ綱要、萬機ノ樞紐
ニシテ、國ノ秩序モ、之ニ據リテ立チ、民ノ幸福モ、之ニ據リテ
保スヘシ。苟モ國民タルモノハ、戰々慄々トシテ、常ニ警戒ノ
心ヲ存シテ、之ヲ遵守セスンハアルヘカラス。又物コトニ規
則法度アリ。必之ヲ服膺シテ、踐ミ誤ルコトナカルヘシ。一旦
緩急アレハ、義勇公ニ奉ストノ勅語コソ、尤モ貴ケレ。後ニモ
細述スルカ如ク、我カ邦ノ君臣ハ、父子ノ親ヲ兼チタルモノ
ナレハ、一旦ノ緩急アル、即チ内賊ノ起ルカ、或ハ外寇ノ來リ

侵スカ如キニ遇ハ、義ニ據リテ勇ヲ奮ヒ、身ヲ致シテ上ニ奉シ、萬世一系ノ皇運ヲ扶翼保護シ奉ルヘキコト、實ニ我カ國民ノ一大義務ナリ。此ノ如クシテ、始メテ上ハ帝室ニ對シ奉リ、下ハ我カ祖先ニ對シテ臣民タリ子孫タルノ責任ヲ盡スト謂フヘシ。嗚呼、生徒諸子ヨ、胤永カ嘗テ告ケタルコトアリシ、昔年歴游シテ鎮西ニ來ル、地方ノ人士ハ、慷慨シテ志ヲ談シ、義氣凜然タルコト、餘國ニ異ナルヲ覺エタリ。今尙ホ然ルモノアラント言ヒシニアラスヤ。今ノ少年生徒モ、徳性醇粹ニシテ、師長ニ接スルニ、形ヲ以テセスシテ、心ヲ以テス、是レ大ニ教ユヘシトモ聞ケリ。今コノ名教ヲ忝ウスル、定メテ感奮興起シテ措ク能ハサルモノアラン。抑又故老ノ口碑ニ存スルヲ聞キタルコトアリ。胡元ノ大舉來寇スル、忽然ト海

ヲ蔽ウテ至ル、其ノ跳梁猖獗ハ、言フヘカラス。彼ノ博多海岸ヨリ押寄せテ、續々ト陸ニ上ルヲ見ルニ、盡ク節制ノ兵ニシテ、スサマシキ勢ナリシカ、筑肥ヲ始メ、遠近ノ武士トモ、言ヒ傳ヘ聞キ傳ヘ、吾モ々々ト得手物ヲ執リテ争ヒ來リ、我劣ラシト、義勇ヲ振ヒ、無二無三ニ斬リ立テ、サスカノ節制ノ兵モ、辟易シテ退去シ、遂ニ我カ猛威ニ氣ヲ奪ハレ、又颶風ノ之ヲ助クルアリシヨリ、全軍覆没シテ、歸ルモノ纔ニ三人ノミナリシトソ。或ハ范文虎等、十四萬ノ兵ヲ率井テ來ル、或ハ水城ニ、或ハ志賀嶋ニ攻メ寄せントスルトキ、草野七郎、河野通有、安達次郎、大友藏人等、激戰奮闘シ、賊等終ニ岸ニ上ルコトヲ得サリキト傳ヘタリ。是ヨリ先キ、北條時宗偉斷ヲ以テ使者ヲ斬リ、彼ノ四百餘州ヲ震動セリ。此ノ時ニ當リテ、上ハ

陛下ノ勅念ヲ懺マシ奉リ、時宗執掌シテ、戰士ヲ聚合振作セリ。コノ大勝ヲ上奏スルニ至リ、始メテ勅念ヲ安ンシ奉ツレリ。時宗ノ喜タル、思フヘキナリ。嗚呼諸子ヨ、此ノ偉功ヲ奏スルハ、君達カ祖宗義勇ノ致ス所ニ非スヤ。前日筑前行軍ノ時、其ノ賊地ニテ分捕リタル兜及物品ヲ見タルコトアルニ非スヤ。諸子ヨ、各ノ宅ニモ、祖宗ノ佩タル刀劍、着タル甲冑、又ハ分捕リタル武器モアラシ。若クハ感狀記録ノ類モアラシ。今勿體ナクモ、朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス、爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラント仰セ下サレタルニ非スヤ。激昂發奮シテ公ニ奉シ。祖先ノ志業ヲ繼キテ顯彰セスンハアルヘカラス。果シテ能ク然ラハ孝義ノ實ハ、一世ニ揚リ、皇運ヲ扶翼スル義モ、亦此ニ盡スコトヲ得ン。豈勉メサルヘケンヤ。胤永

ハ、素ト薄徳非オナレトモ、今幸ニ乏ナ此ニ承ケ、聖旨ノ難有ニ感激シ、勃焉興起シテ、伏櫪ノ情ニ堪ヘサルモノアリ。年ハ既ニ老イタレトモ、染メスシテ髮尙ホ黒ク、補ハスシテ齒尙ホ全シ、疾馳健歩、亦以テ諸子ト相争フニ足レリ。イサ事アラハ、同心協力シ、與ニ國家ニ報ユル所アラシ。今コノ演説ヲ草スルニ臨ミ、躍然トシテ筆ヲ投シテ起ツニ至レリ。昔者支那聖主立教ノ意ハ、五教ニ歸セリ。孔子之ヲ類別シテ、君臣也、父子也、夫婦也、昆弟也、朋友之交也トイヘリ。孟子之ヲ釋シテ、父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信トイヘリ。蓋シ天賦ノ性ハ、即チ仁義禮智ノ四徳ニシテ、父子ノ間ニ發シテハ、親ヲ成シ、君臣ノ間ニ發シテハ、義ヲ成シ、夫婦ノ間ニ發シテハ、別ヲ成シ、兄弟ノ間ニ發シテハ、序ヲ成シ、朋友

ノ間ニ發シテハ、信ヲ成ス。今我カ聖明ナル　今上陛下ハ、
父母ニ孝ニ、兄弟ニ友ニ、夫婦相和シ、朋友相信スト教ヘタマ
フ。夫レ天祖天孫授受シテ、列聖繼述シタマヘル知仁勇ノ三
德ハ、源泉ナリ。其ノ混々トシテ流レ出テ、或ハ江河トナリ、或
ハ沼池トナルカ如ク、父子ノ間ニ流出シテハ、愛敬ノ孝トナ
リ、兄弟ノ間ニ流出シテハ、悌順ノ友トナリ、夫婦ノ間ニ流出
シテハ、唱隨ノ和トナリ、朋友ノ間ニ流出シテハ、善導ノ信ト
ナル。此知仁勇ハ人ノ三德ナリトイヘトモ、仁ハ人ノ本心ナ
レハ、禮智ハ包ミテ其ノ中ニ在リ、勇ハ義ナリ。故ニ三德ハ、四
德ニ異ナルコトアルニ非ス。孝友和信モ亦五教トニシテ
一ナリ。之ヲ始メニ原ケハ、天ノ命スル性ニテ、之ヲ分言スレ
ハ、三德ナリ、四德ナリ、之ヲ約言スレハ、即チ道ナリ。天祖以來

斯ノ道ヲ心ニ得テ躬ニ行ヒ、臣ヲ率井民ヲ化シタマヘルコ
ト幾千百年ナリ。故ニ世々孝子義人ノ輩出スル、枚舉ニ違ア
ラス、又三韓支那ヨリ文教ノ書籍モ輸入シ來リ、逐次ニ學校
ノ設アリテ、其ノ感化ヲ助クル具モ粗備ハレリ。然リト雖モ、
未ダ聖詔ヲ以テ名教ヲ敷キタマヒシコトハアラサリシナ
リ。降りテ隋唐ノ遣使創マリ留學生ヲ遣リ、彼ノ學風ヲ取り
用ヒラレシカトモ、其ノ主トスル所ハ、斯ノ道ニ非スシテ、制
度文物ノ表面ト詩賦文藝ノ末トニアリシカハ、我カ醇粹ナ
ル德化ノ如キモ、漸ク衰頽ノ傾アリキ。爾後明君賢相ナキニ
非スト雖モ、或ハ外戚強臣ノ國柄ヲ執ルアリテ、聖躬德教ノ
覃及ヲ支ヘシカハ、所謂屯其膏トイフモノ、前後幾百年ニ及
ヘリ。今ヤ大勢一變古ニ復リテ、飛龍天ニ在リ、皇澤四モニ敷

キ、上意下通シ、下情上達ス、然リト雖モ、二尊開域以來、斯ニ幾千載ナルヲ知ラス、陵谷變遷シ、土地彌開ケ、人民益蕃ク、加フルニ世界萬國ノ交通アリテヨリ、月ニ廣ク年ニ盛ニシテ、萬種ノ教義モ輸入シ、異様ノ人種モ多ク來リテ、復タ醇然タル帝國ノ舊ニ非ス。涇ハ渭ヲ以テ濁ルトイフカ如ク、四維ノ弛ミタルコトモ少シトセス。是レ即チ 陛下ノ聖慮ヲ憐シタマフ所以ナラスヤ。是ニ於テカ、皇祖皇宗ノ聖慮ヲ繼述擴充シタマヒテ、御心ニ得テ御身ニ行ヒタマフ所ノ道ヲハ、特筆大書シテ全國ニ敷キ教ヘタマヘリ。蓋シ感化ノ及ヘル所ハ、近狹ニシテ、敷教ノ及ヘル所ハ廣遠ナリ。感化ニ本ツケテ、之ヲ施及スルハ、前古未曾有ノ盛典ニシテ、乃チ善美ヲ盡セル所以ナラスヤ。蓋シ我カ帝國ノ斯ノ道ニ伴ヘル、天地ト共

ニ窮ナキ御國風ナレハ、此ノ國ノ民タルモノハ、必忠、必孝、必友、必信、必和ニシテ子孫萬世ニ至ルマテ、此ノ方針ヲ誤ラス、以テ聖慮ノ懇篤ナルニ對ヘ奉ツラスンハアルヘカラサルナリ。

我カ日本ノ國ヲ建ツル、天祖天孫ノ其ノ基ヲ爲シタマヒシヨリ、世々ノ神聖之ヲ繼カセラレ、獨リ帝室ノ力ニテ作り爲シタマヘルモノナリ。時ニ或ハ土壤山澤ヲ開闢シ、凶逆妖邪ヲ掃蕩シタマヒシモ、帝室ノ力ナラサルハナク、兵ヲ擧ケ師ヲ出シ、不服不庭ヲ討スルモ、帝室ノ威ニ由リ、人民ヲ集合シ、賑恤シ、教育シ、衣食セシムルモ、帝室ノ恩ニ由リ、聚落郡村ヲ成シ、遂ニ都ヲ成シ、國ヲ成スモ、亦皆帝室ノ德ニ由ラサルハナク、凡百ノ事、曾テ他力ヲ借リタマフコトナシ。サテ其ノ所

謂臣民トイフモノハ、多クハ帝室ノ疏族遠裔ニシテ、下能ク上ニ安ンシ、上モ亦下ニ安ンシタマヘリ。加フルニ、至仁至寛ノ政アリテ、年代久遠ノ間、自ラ相信孚シテ、成リ立テルモノナリ。彼ノ陶虞ノ禪讓アルニモ非ス、殷湯周武ノ放伐アルニモ非ス。是レ乃チ東洋ニ特立セル宇内無比ノ帝國タル所以ナリ。故ニ我カ日本國土ハ、帝室ノ所有物ニシテ、政廳ハ帝室ノ朝廷ナリ。彼ノ支那ノ天下ヲ官ニスルモノトハ、亦是レ天地懸隔セリ。且又我カ國ノ皇室ト臣民トノ間ハ、君臣ノ義ト父子ノ親トヲ兼ヌルモノナレハ、固ヨリ世々ノ君ニシテ、世々ノ臣ナリ。君道既ニ純ニシテ、臣道モ亦純ナリ。周ノ頑民ハ、殷ノ忠臣ナリトイフカ如キモノアルコトナシ。況ヤ五代馮道ノ如キモノナヤ。皇統萬世一系ニシテ、天壤ト與ニ無窮ナ

ルハ、言フヲ待タズ。臣民ニ在リテモ、同一系ニシテ、萬世子孫永ク皇室ヲ離ル、コト能ハサルモノトス。支那ノ贗ヲ納レテ始メテ君臣ノ契約ヲ結ビ、既ニ仕ヘテ不可ナレハ去リ、三諫シテ聽カサレハ去リテ、其ノ契約ヲ解クモノトハ固ヨリ同日ノ論ニアラス。國體既ニ異ナレハ、君臣ノ關係モ、自ラ異ニシテ、結合親密ナラサルコトヲ得ス。然ルニ、今此君臣ノ教目ヲ舉ケサセラレサリシハ、蓋シ忠義奉公ノ條ヲ舉ケ示シタマヘハ、君臣ノ義目ハ、言ハスシテ明ナレハナリ。況ヤ父子ノ親ヲ兼ヌル御國風ナレハ、國民タルモノ、上、皇室ニ愛敬ヲ兼テ盡サスンハアルヘカラサルハ言フモ更ナリ。

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシ

テ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古
今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖
ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其
德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

謹テ按スルニ是ヲ篇末ノ一段トス。遙ニ篇首ニ照應シ、上文
ヲ承ケテ收結シタマヘルナリ。蓋シ前段至當ノ務ヲ以テ臣
民ニ望ミタマヒ、終ニ臨ミテ、又親ラ臣民ト俱ニ拳々服膺シ
テ率先シタマハントノ聖慮ヲ述ヘタマフ。其懇到惻怛ナル、
循々トシテ俯シテ就カセタマヘル、臣民タルモノ、之ヲ何ト
カ言ハン。豈感奮ニ堪フヘケンヤ。所謂道之以德トイフモ、建
皇極トイフモ、豈此ニ外ナランヤ。夫レ天祖天孫以來、聖子神

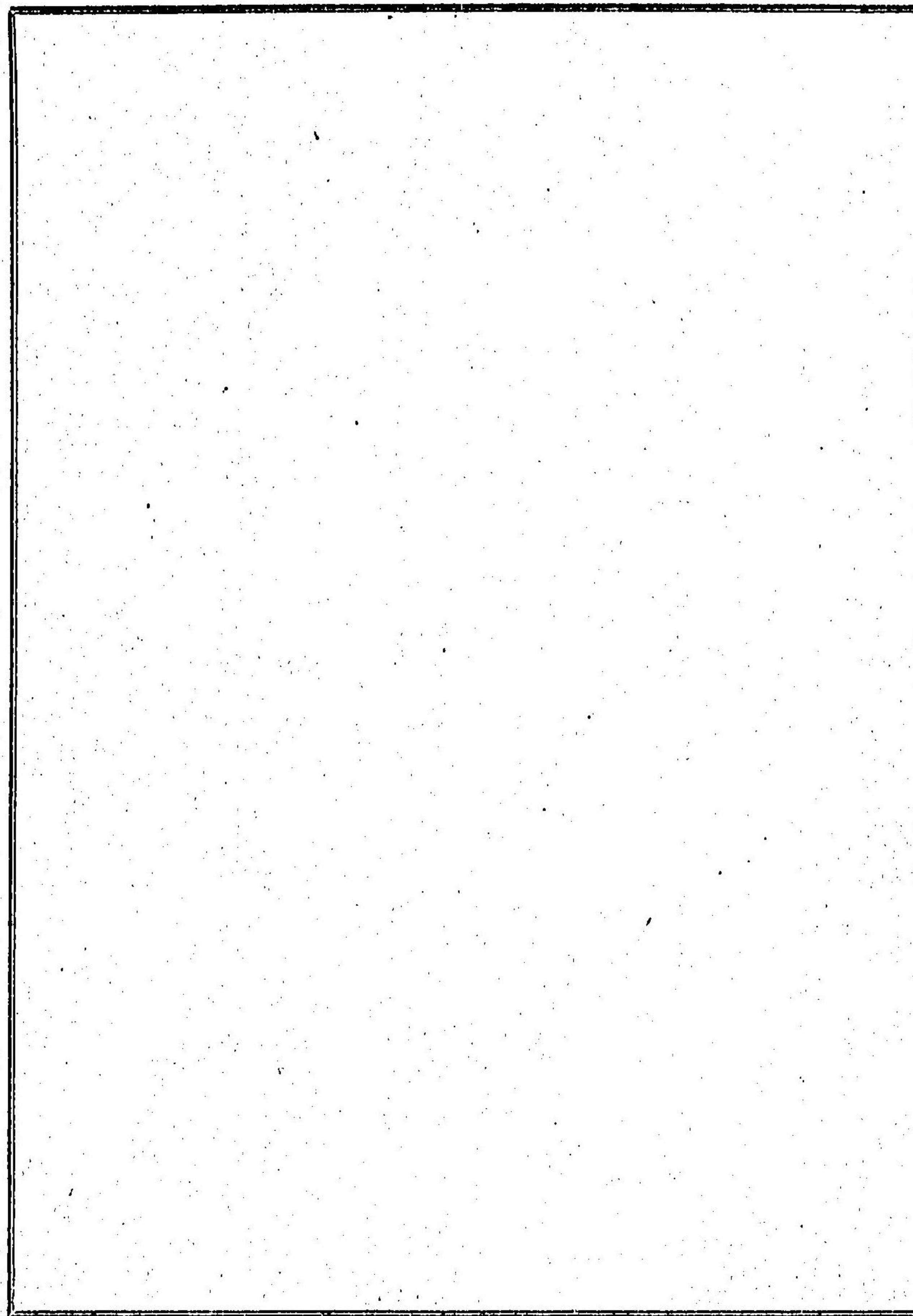
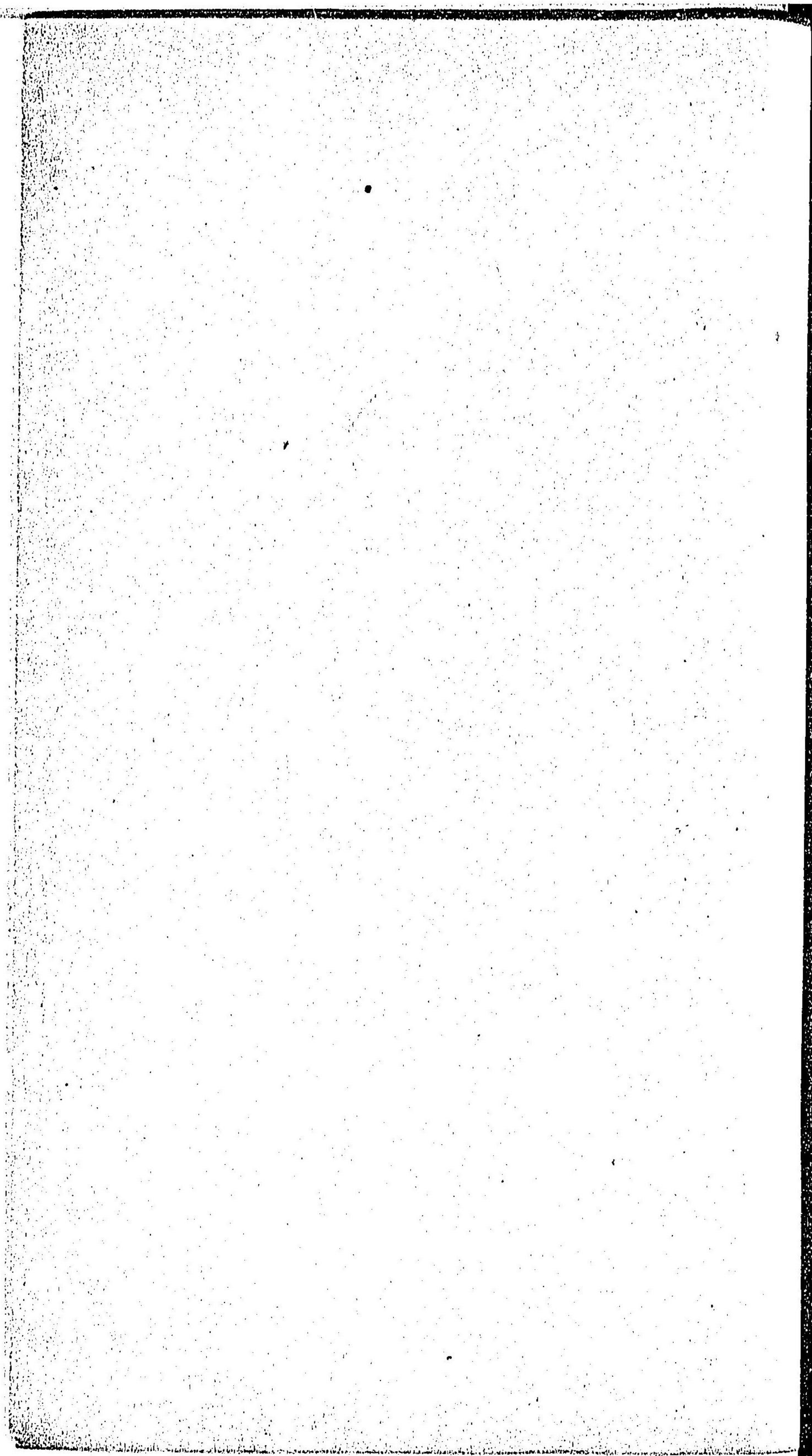
孫繼々承々シ、四海ノ廣キ、億兆ノ多キ、之ヲ治メテ教ヘタマ
ヒ、君師ノ事ヲ兼テ任シタマフコト、固ヨリ既ニ顯然タリト
雖モ、師ノ實アリテ師ノ名ハ未ダ見ハレザリシナリ。今ヤコ
ノ詔勅ヲ以テ名教ヲ敷カセラル、ニヨリテ、師道始メテ立
チ、教旨始メテ明ニ、人心頼リテ定マリ、國基頼リテ鞏ク、赫々
トシテ日ノ天ニ中スルカ如シ。豈至正至大ノ盛事ナラスヤ。
況ヤ我カ聖明文武ナル。陛下ノ名教ヲ御身ニ實踐シテ
臣民ヲ教ヘタマフナヤ。現今三萬有餘ノ學校々員、四千餘萬
ノ同胞、誰カ仰望感激シテ、此ニ心服セサルモノアラシヤ。抑
斯ノ道ハ、唯五教ノ間ニ流通スルノミナラス、凡ソ國民タル
モノ、一身ノ出處進退ヨリ、一言一行ニ至ルマテ、悉ク斯ノ道
ニ伴ハスンハアルヘカラス。蓋シ我カ皇統ノ萬世一系ニシ

テ、天壤ト共ニ無窮ナルモノハ、神聖世々ニ出テサセタマヒ
テ、斯ノ道ヲ萬世ニ流通貫穿シテ、絶タサラシメタマフ故ナ
リ。我カ萬國ト對峙スル所以モ、彼ノ藝學技術ニ非スシテ、斯
ノ道ニ率由スル故ナリ。夫レ斯ノ道ハ本ナリ。其ノ仁義忠孝
トイヒ、廉耻禮讓トイフ、譬ヘハ衣服飲食ノ日ニ離ルヘカラ
サルカ如シ。遵守シテ力行セサルヘケンヤ。彼ノ藝學技術ノ
如キハ、末ナリ、其ノ本ヲ補相スル者ナリ。國家ノ責アルモノ
斯ノ道ヲ以テ大体トシ、藝學技術ヲ以テ大用トシ、以テ人心
ヲ正クシ、民生ヲ厚クシ、其ノ本末輕重ヲ失フコトナクハ、始
メテ聖慮ニ背クコトナキニ庶幾カラシカ。

敕語演說終

敕語演說跋

教育ノ敕語學者ノ解釋スルモノ極メテ多シ井上文學博士
赤松連城師以下十數人ニ下ラス皆各長スル所アリ秋月章
軒翁頃者亦々敕語演說ノ著アリ予受テ之ヲ讀ムニ義ヲ釋
スルコト明晰ニシテ意ヲ用ユルコト懇篤ナリ意フニ衆解
中ノ出角ナルモノナルヘシ蓋翁ノ學ハ實踐ヲ主トス長ス
ル所説明ノ巧ニアラスシテ而テ心得ノ孚ニ在リ衆解ニ超
ル以所ナリ若夫章句ノ末彫琢ノ工ニ至テハ豈ニ翁ノ務ム
ル所ナラム哉謹テ一語ヲ卷尾ニ書シ以テ翁ノ微意ニ答フ
ト云爾



[Redacted header area]



[Redacted footer area]